

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成25年12月19日 (2013.12.19)

【公表番号】特表2013-501438(P2013-501438A)

【公表日】平成25年1月10日 (2013.1.10)

【年通号数】公開・登録公報2013-002

【出願番号】特願2012-523193(P2012-523193)

【国際特許分類】

H 0 4 W 40/14 (2009.01)

H 0 4 W 40/28 (2009.01)

【F I】

H 0 4 Q 7/00 3 5 0

H 0 4 Q 7/00 3 6 2

【誤訳訂正書】

【提出日】平成25年10月30日 (2013.10.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 8】

本発明の実施形態は、オンデマンドのルートを確認するための方法を提供するものであり、この方法は、

安定したルートが確立される必要があると判断するステップと、

安定したルートを確認して安定したルートに対応するルートエントリをルートテーブル内に記録するステップと、

他の通常のルートの有効時間よりも長い、安定したルートの有効時間を判断するステップと、

安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作を行うステップとを含む。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 9】

本発明の実施形態は、ネットワークノード装置を提供するものであり、ネットワークノード装置は、

安定したルートが確立される必要があると判断するように構成されたルート判断部と、

ルート判断部が、安定したルートが確立される必要があると判断した後に、安定したルートを確認するように構成されたルート確立部と、

安定したルートに対応するルートエントリをルートテーブル内に記録するように構成された記録部と、

他の通常のルートの有効時間よりも長い、安定したルートの有効時間を判断するように構成された有効時間判断部と、

安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作を行うように構成されたルート維持部と

を含む。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0011

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0011】

本発明の実施形態は、オンデマンドのルートを確認するシステムを提供するものであり

、

システムは、ソースノードと、中間ノードと、宛先ノードとを含み、

ソースノードは、中間ノードにルート要求コマンドを送るように構成され、

ルート要求コマンドは、安定したルートエントリが確立される必要があることを示す指示情報を担持し、

中間ノードは、ルート要求コマンドを受信して、指示情報に従って宛先ノードまでの安定したルートを確認して、安定したルートに対応するルートエントリをルートテーブル内に記録するように構成され、

ソースノードは、中間ノードにより返されたルート応答コマンドに従って安定したルートに対応するルートエントリをルートテーブル内に記録するように更に構成され、

ソースノードおよび中間ノードは、安定したルートの有効時間を判断して、安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作を行うように更に構成され、この安定したルートの有効時間は、他の通常のルートの有効時間より長い。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0012

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0012】

本発明の実施形態による、オンデマンドのルートを確認する方法、装置およびシステムを介して、安定したルートが確立される必要があると判断された場合、安定したルートが確立されて、安定したルートに対応するルートエントリが、ルートテーブル内に記録され、安定したルートの有効時間が判断され、この安定したルートの有効時間は、他の通常のルートの有効時間よりも長く、安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作が行われる。したがって、他の通常のルートエントリに行われるエージング操作よりも遅いエージング操作を安定したルートエントリに行ってよい。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要求事項を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を実際上低減することができる。

より明瞭に本発の明実施形態によるか、または従来技術における技術的解決策を示すために、実施形態または従来技術を説明する添付図面を以下において簡潔に導入する。明らかに、以下の説明における添付図面は、本発明の一部の実施形態のみであり、当業者は、独創的な尽力なしに他の図面を添付図面から導出することができる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0016

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0016】

本発明の実施形態による、オンデマンドのルートを確認するための方法、装置およびシステムにおいては、各ネットワークノードの異なる移動性および異なる通信環境に向けて、要求時にルートを確認する際に、異なるアプリケーションに従って安定したルートが確立される必要があると判断され、安定したルート発見が行われ、この安定したルートが確立されると、安定したルートに対応するルートエントリが、ルートテーブル内に記録され、安定したルートの有効時間が判断され、この安定したルートの有効時間は、他の通常のルートの有効時間よりも長く、安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作が行われる。明らかに、安定したルートが確立される必要がない場合、ルート発見を従来技術に従って行ってもよい。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

他の通常のルートと区別する便宜上、確立された安定したルートに対応するルートテーブルエントリは、前方ルートおよび後方ルートを記録するとき、ルートテーブルにおいては安定したルートエントリとラベル付けしてもよい。

【誤訳訂正 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0030

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0030】

ステップ103：他の通常のルートの有効時間よりも長い、安定したルートの有効時間を判断する。

【誤訳訂正 8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0031

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0031】

本発明の実施形態においては、安定したルートエントリの有効時間は、他の通常のルートエントリの有効時間と異なるものであり、また、他の通常のルートの有効時間よりも長い所定の値であってよく、ノードは、安定したルートエントリにより、より遅いエージング操作を行うことができるようになっている。ノードは、ネットワークに加わったときには有効時間が通知され、すなわち、ソースノードおよび中間ノードは、構成情報に従って安定したルートの有効時間を判断することができる。

【誤訳訂正 9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0040

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0040】

本発明の実施形態による、オンデマンドのルートを確認するための方法においては、安定したルートを確認し、安定したルートに対応するルートエントリをルートテーブルに記

録し、他の通常のルートの有効時間より長い、安定したルートの有効時間を判断し、安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作を行うことが理解される。したがって、他の通常のルートエントリに行われるエージング操作より遅いエージング操作を行ってもよい。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要求事項を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を実際上低減することができる。

【誤訳訂正 10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0047

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0047】

有効時間判断部304は、他の通常のルートの有効時間よりも長い、安定したルートの有効時間を判断するように構成されている。

【誤訳訂正 11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0049

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0049】

本発明の実施形態によるネットワークノード装置を、ルートソースノードまたはルート宛先ノードとしてもよく、また、ネットワークノード装置は、他の通常のルートエントリに行われたエージング操作よりも遅いエージング操作を、安定したルートエントリに対して行う。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要求事項を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を実際上低減することができる。

【誤訳訂正 12】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0055

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0055】

有効時間判断部404は、他の通常のルートの有効時間よりも長いも安定したルートの有効時間を判断するように構成されている。

【誤訳訂正 13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0062

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0062】

本発明の実施形態によるネットワークノード装置は、ソースノードとして扱われる場合があり、アプリケーション層の要件に従って安定したルートを確立し、他の通常のルートエントリに行われたエージング操作よりも遅いエージング操作を、安定したルートエントリに対して行う。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要求事項を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を実際上低減することができる。

## 【誤訳訂正 14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0068

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0068】

有効時間判断部504は、他の通常のルートの有効時間よりも長い、安定したルートの有効時間を判断するように構成されている。

## 【誤訳訂正 15】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0077

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0077】

本発明の実施形態によるネットワークノード装置は、中間ノードとして扱われてもよく、受信されたルート要求コマンドに従って安定したルートを確立し、他の通常のルートエントリに行われたエージング操作よりも遅いエージング操作を、安定したルートエントリに対して行う。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要件を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を實際上低減することができる。

## 【誤訳訂正 16】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0085

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0085】

本発明の実施形態によるネットワークノード装置は、宛先ノードとして扱われてもよく、受信されたルート要求コマンド内に担持された累積コストパラメータに従ってルート有効時間を判断し、中間ノードおよびソースノードがルート有効時間に対応するルートエントリにエージング操作を行うことができるように応答コマンド内のルート有効時間を担持する。これによって、他の通常のルートエントリに行われたエージング操作よりも遅いエージング操作を、安定したルートエントリに対して行う。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要求事項を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を實際上低減することができる。

## 【誤訳訂正 17】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0091

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0091】

ソースノード701および中間ノード702は、安定したルートの有効時間を判断して、安定したルートの有効時間に従ってルートエントリにエージング操作を行うように更に構成され、この安定したルートの有効時間は、他の通常のルートの有効時間よりも長い。

## 【誤訳訂正 18】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0095

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0095】

本発明の実施形態によるオンデマンドのルート確立システムは、安定したルート確立し、安定したルートに対応するルートエントリをルートテーブル内に記録し、他の通常のルートエントリに行われたエージング操作よりも遅いエージング操作を安定したルートエントリに行う。この場合、遅延に関する異なるアプリケーションの要求事項を満たすことができるだけでなく、安定したルートのためにルート発見を頻繁に行う必要がないことからネットワーク帯域幅の消費量を実際上低減することができる。

【誤訳訂正19】

【訂正対象書類名】図面

【訂正対象項目名】図1

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【図1】

